

光 明 寺 通 信

こ う み ょ う

第 28 号

によらい こうみょう こうみょう ちえ
この如来は光明なり。 光明は智慧なり。

ちえ
智慧はひかりのかたちなり。

しんらんしょうにんちよさく いちねんたねんもんい
親鸞聖人著作『一念多念文意』

新しい年を迎えました。

今年もよろしく願っています。

昨年同様に、お寺の年中行事や法要を丁寧にお勤めし、ご門徒や地域の方のつどいの場を開いてゆきたいと思っております。

今年より、新たに始めることがあります。

一つ目。ご門徒の皆さまに、任意ではありますが、「光明寺護持会」への会費の納入をお願いしてまいります。納めていただいた会費は、毎年の本山への護持金の納入、お寺の様々な活動に充ててまいります。どうぞ、ご理解とご協力をお願いいたします。

二つ目。年回忌法要のご案内をお送りいたします。以前より、知らせて欲しいという声をお聞きしておりましたが、コロナ禍もあり控えておりました。

三つ目。仏事についてですが、春と秋のお彼岸の中日に、合同法要をお勤めいたします。また、7月には新盆の合同法要をお勤めいたします。改めてご案内いたします。

仏事と終活を大切にしてまいります。とにかく、お寺が皆さまの日常の場となりますよう、思案してまいります。



本山・真宗本廟（京都・東本願寺）にて
宗祖親鸞聖人御正忌報恩講

第 28 号

2023 年 1 月 1 日発行

発行責任者

〒135-0013

東京都江東区千田 9-7

真宗大谷派 光明寺

住職 小林尚樹

電話：03-3644-3043

ホームページ：

<http://koumyouji-fukagawa.or.jp/>

第15回終活セミナー報告

2022年11月19日(土)、第15回目となる「終活セミナー」を開催いたしました。

参加者は、お寺に11名、インターネットで11名の方にご参加いただきました。

今回のテーマは「お寺での葬儀とお墓について」大切にしたいこととし、葬儀のパートナーとして、江東区内の葬儀社である(株)大原セレモニーハートさんより山本佳代さんにお越しいただきました。

まずは住職より、お寺での葬儀についてお話しいたしました。



真宗大谷派の正式なお荘厳です。現状お寺では用意できませんので、京仏具(株)小堀さんよりお借りいたしました。揃えておきたいです。

お寺での葬儀は、とにかくメリットだらけです。まず、祭壇が必要ありませんから、経済的負担が低くなります。そして、亡き人の距離感が近く、ゆつくりとお別れの時を過ごすことができます。何より、浄土真宗の教えにかなっているのです。

教えにかなっているということは、私たちは、このいのちを終えたら浄土へ帰ると教えられますが、正面のお内陣は浄土を表し、私たちが生きて往く方向が示されています。

そして、亡き人を靈魂とはせずに、仏さまとして出遇い直すことを通して、亡き人の願いに心を寄せて、今を生きるこの私の人生を仏の教えに尋ねることが始まるのです。

お寺は念仏の道場です。亡き人と共に念仏申す生活が願われていると教えられます。

大原セレモニーハートの山本さんには、ゆつくり、丁寧な、優しくお話しいたいただき、安心して相談できるなあと感じました。

昨年で創業100年を迎えられた葬儀社。地域の方々に信頼されて、葬儀という仕事に真摯に向き合っておられる姿勢に頭が下がりました。



今回も多くのの方々よりアンケートにご協力いただきましたので、ご紹介いたします。

◆参加の動機を教えてください

・今回は実際の祭壇が見られるということで、ぜひお寺での参加をしたいと思いました
・お寺葬を主軸とした終活セミナーに興味があったので

◆新たな発見や気づきがありましたか

・儀式や供養の意味を知り、伝える大切さ
・4回目の参加ですが、今回が一番「死」ということを強く感じました。「死」を悲しむだけでなく「ものがたり」として受け止められたらいいなと思いました
・浄土真宗の考え方で、仏様として亡き人をとらえることを理解できました

◆これから実践しようと思っている「終活」があれば教えてください

・自分が亡くなった後の手続き
・家族・友人に伝えておく事をまとめている
◆感想やご意見があれば教えてください
・実際のおかざりやその意味をひとつひとつ丁寧に頂けて良かったです
・これからの自分や親について考える良いきっかけになりました

次回は、2月18日(土) 14時から。
テーマは、「自分史を作ってみて気付くこと」と「人生の物語を紡ぐ」です。

報恩講勤修

11月13日(日)、報恩講をお勤めいたしました。新型コロナウイルスの感染防止対策のため、午前と午後の二座に分けてご参詣いただきました。

報恩講とは私たち真宗門徒にとって一年の中でもっとも大切な御仏事で、本山(京都・東本願寺)では、宗祖親鸞聖人の御祥月命日である11月28日まで、一週間にわたり勤められる法要です。

全国の末寺では、本山にならって宗祖親鸞聖人の御命日の近くに報恩講が勤められますが、光明寺では、毎年11月の第2日曜日にお勤めしています。

宗祖親鸞聖人が大切にされた本願念仏の教えに会い、この私が真によるべき教えを伝えてくださった御恩に感謝し、仏の教えを聞くことを通して、一人ひとりが、その御恩に報いた生活というものを確かめてゆくことが願われています。



光明寺護持会 年会費納入のお願い

度々ご案内して参りましたが、2023年より、年会費の納入をお願いしたいと思えます。会費は主に、本山への護持金の納入のためであります。光明寺の様々な「つどい」や新たなご縁づくりのための活動に使わせていただきたいと思います。

改めてご案内をお送りいたしますので、何とぞ願いに賛同いただき、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

へおとな食堂へはじめました

10月より、月に1回開催しております。

コロナ禍にあつて、お彼岸やお盆のお参りに伺っている中で、お一人でお食事している方が多いことをお聞きしました。たまにはお寺でおしゃべりしながら一緒に食事ができればいいなと思い、はじめました。



1食200円。1月は21日(土) 17時半より19時までです。
お寺までご連絡ください。

同朋の会のテキストが 『歎異抄』に替わります

4年半をかけて、親鸞聖人の詩「正信偈」を尋ねてまいりましたが、昨年12月に読み終えましたので、今年から新たに『歎異抄』をテキストに学び合いたいと思います。

『歎異抄』は、岩波文庫でも出版されていますが、ベストセラーと言われていません。

そのように人気のある本ですが、実は親鸞聖人の著作ではなく、そのお弟子さんである唯円という方がまとめられたものであると伝えられております。

唯円さんは今の茨城の方だと伝えられていますが、親鸞聖人が京都に帰ったのちに、関東に残ったお弟子さんたちの間で、親鸞聖人からお聞きした教えの了解に混乱が生じてきたことから、親鸞聖人のお心と「異」なことを「歎」いて記されたと言われます。多くの方々に読まれてきた『歎異抄』、一緒に読みすすめてまいりましょう。



東京大空襲追弔法要